

第 7 章 地域別構想

序. 地域区分

大河原町の地域区分は、旧大河原町の川西地区・川東地区と旧金ヶ瀬村の歴史的背景や地域の特性を勘案し、以下のように設定します。この地域区分に基づき地域別の概況と課題を整理し、地域別にまちづくりの方向性と目標像、整備方針を定めます。

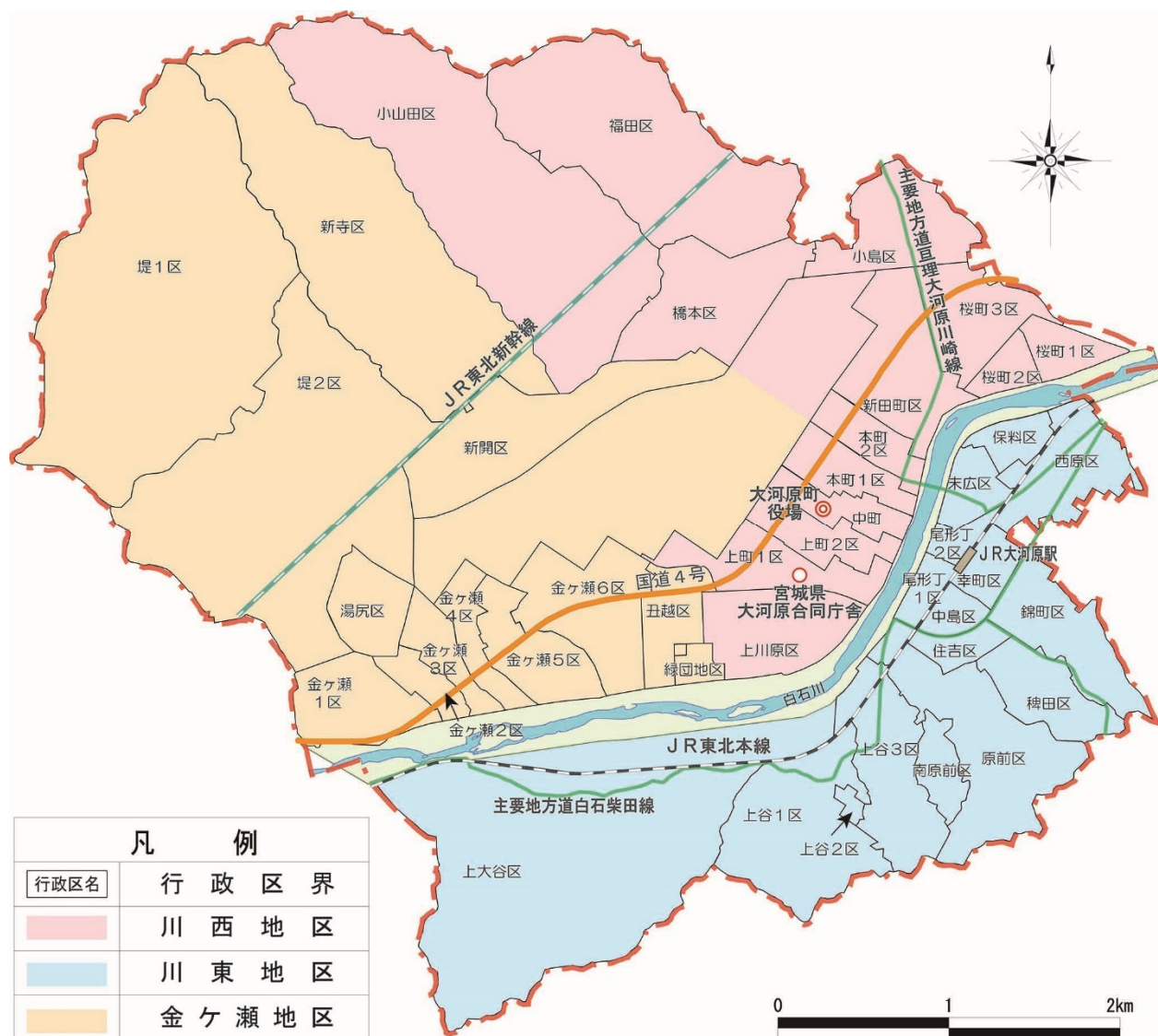


図 7-1 地域区分図

1. 川西地区

(1) 地区の概要

川西地区は、本町の北東側に位置し、地域内には用途地域と白地地域があります。

地域内には、国道4号、県道亘理大河原川崎線が通り、町役場や宮城県大河原合同庁舎、みやぎ県南中核病院などが立地しています。

国道4号沿いには大型店舗が立地している一方、中町商店街では商店の減少や空き店舗・空地の増加が見られます。

表 7-1 人口・世帯数

行政区名	世帯数	人口
小山田	91	267
橋本	70	222
福田	53	139
小島	159	393
上川原	631	1,612
上町1	355	879
上町2	264	653
中町	180	435
本町1	206	569
本町2	181	460
新田町	581	1,507
桜町1	299	753
桜町2	189	527
桜町3	612	1,541
合計	3,871	9,957

平成27年1月1日住民基本台帳

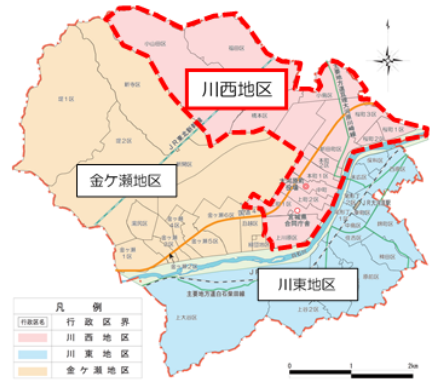


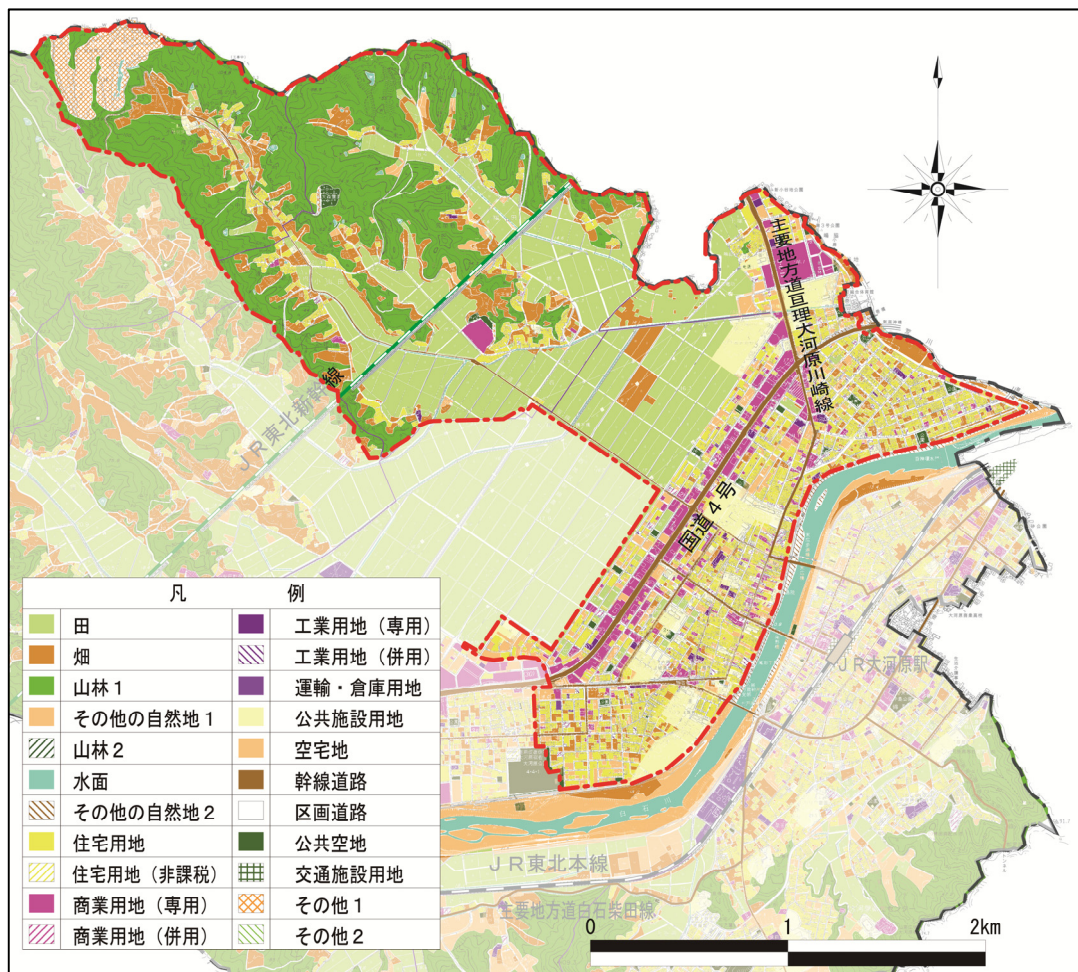
図 7-2 位置図

1) 人口

川西地区は、3つの地域区分の中で最も人口・世帯数が多い地区です。

2) 土地利用

国道4号より東側は住宅用地が、北側は田畑や山林が多くなっています。また、国道4号沿いには商業用地が多く見られます。



出典：2010年度（平成22年度）県南部地区都市計画基礎調査（宮城県）

図 7-3 土地利用現況図

3) 住民意向

①町民意向調査

町民意向調査から見た川西地区居住者の主な意見について下に示します。

表 7-2 町民意向調査の概要

項目	結果概要
主に行っている場所	・通勤、通学は3割強が町内となっている。 ・日用品の買い物は、6割以上が川西地区内に行っている。 ・洋服、家電、趣味等の買い物は、3割強が川西地区、半数以上が町内となっている。仙台市、名取市がそれぞれ2割程度となっている。 ・休日のレクリエーションは町内が1割強と少なくなっている。 ・病院・医療は川西地区が3割弱、川東地区が2割強となるなど町内が7割と多くを占める。 ・教育・文化活動、習い事などは、3割強が川西地区となるなど約半数が町内となっているが、仙台市が3割弱となるなど町外に行く人も多い。
普段の移動について	・目的地に関らず、自動車による移動が大部分を占めている。
鉄道利用について	・鉄道駅を利用する人のうち大部分がJR大河原駅を利用している。 ・駅までの交通手段は自動車が4割強と最も多く、次いで徒歩が3割弱となっている。 ・駅までの所要時間は10分以内が5割以上、20分以内が8割以上を占める。
デマンド型乗合タクシーについて	・週数回程度利用、週1回程度利用、月数回程度利用、月1回程度利用、年数回程度利用、年1回程度の合計値が5%未満と非常に少ない。
地域のまちづくりについて	・住宅地周辺に対する要望としては、医療・福祉施設、買い物環境充実、安全性向上、道路公園の維持管理・再整備、空き地・空き家の解消の順になっているが、回答数に大幅な差異は見られない。
今後の商業地のあり方について	・国道4号沿いでの商業機能充実を求める意見が4割弱と多く、次いで大河原駅前が3割弱となっている。 ・中央通り商店街の充実が2割弱に留まっている。
今後の工業地のあり方について	・金ヶ瀬川根工業団地への企業誘致を求める意見が約半数と多い。
今後の農地のあり方について	・無秩序な開発は避けるべきだが、計画的な開発などで減少することはやむを得ないとする意見が6割弱と大部分を占める。
今後の山林のあり方について	・無秩序な開発は避けるべきだが、計画的な開発などで減少することはやむを得ないとする意見が4割弱を占める。 ・遊歩道等レクリエーションの場の整備が2割強と一定数見られる。
町の拠点（中心地）の場所と機能について	・大河原町役場、商店街およびその周辺を町の拠点と考える人が4割弱と最も多く、次いで国道4号沿い（新南・新東周辺）が3割弱と、地区内で異なる考えが見られる。 ・拠点には、日常生活に必要な店舗・サービス機能の充実を求める人が4割強、医療・福祉施設が3割弱とこの2つを求める意見が多く、飲食店等や趣味・文化活動の場としてのニーズは低い。
今後の道路整備や管理について	・災害時の避難路整備を求める意見が最も多く、歩行者安全性、街路灯、生活道路再整備へのニーズが高い。 ・幹線道路の充実や街並み景観に対するニーズは低い。
居住地近隣の公園について	・新規整備よりも維持管理の充実を求める意見が最も多く、次いで休憩施設のニーズが高い。 ・遊具や植栽充実へのニーズは低い。
大河原らしさを感じる景観について	・葦神堰、一目千本桜を前景とした蔵王連峰への眺望を大河原らしい景観と考える人が8割以上と非常に多く、その他白石川に関連する景観を大河原らしいとする人が多い。

②住民ワークショップ

住民ワークショップでは、第1回ワークショップで住民の方々が考える川西地区の「魅力」と「課題」について話し合い、第2回ワークショップで魅力を活用し、課題を解決するための「必要な取り組み」について話し合いました。下に、WSの結果概要を示します。

住宅地としての環境が良く、買物や公共施設の利便性が良いという意見の一方で、大雨時の浸水に対する不安、商店街の衰退、自動車を使えなくなった後の購買に関する不安などの意見が多く見られました。

〈住環境・定住促進〉

第1回WS結果（地域の魅力と課題）	
地域の魅力	地域の課題
・中町は公共機関が多いので便利 ・公共施設が全部そろっていて近いし便利で住みやすい ・生活環境がコンパクトにまとまっている ・仙台圏への通勤や買い物が容易である ・文化施設、スポーツ施設が充実している ・生活の近くにまだ自然環境が残っている	・街灯が少なく暗い ・通学路の一部で草が伸びすぎ危険 ・免許証返納者の買い物・通院が心配 ・商店街の衰退により今後買い物難民が出かねない ・商店街の道路が狭い ・障がい者福祉を充実させてほしい ・古い住宅団地で空き家も増えている
第2回WS結果（必要な取り組み）	
○スプロール化の抑制・人口集約 ・居住エリアの集約 ○多様な世代の定住促進 ・空き家を定住促進に活用する ・駅までのアクセスを高め移住者を増やす ・移住者向けに家賃補助を行う ・仙台圏のベッドタウン化を推進する	○便利がつまった住環境の維持・強化 ・大型店だけではない近隣商店街の復活 ・スリッパで行ける商店街の再生 ○静かで住みやすく便利な住環境の維持 ・歩道の街灯の整備 ・通学路の除草などの管理の適正化 ・障がい者福祉施設やバリアフリーの充実

〈公園緑地〉

第1回WS結果（地域の魅力と課題）	
地域の課題	
・大河原公園周辺に灯りがほしい / 大河原公園テニスコートの駐車場の柱が危ないので撤去してほしい ・バスケットボールができる公園を増やしてほしい ・子どもから高齢者まで過ごせる公園をつくってほしい ・安心して遊べる水遊び場がない ・河川敷のスポーツ施設は大雨が降ると使えなくなる	
第2回WS結果（必要な取り組み）	
○公園・緑地の利用促進 ・子供から高齢者まで多様な利用を踏まえた施設整備 ・管理面を考えた公園施設の整備 ・大雨時でも使えるスポーツ施設の整備	○河川敷の利用促進 ・安心して遊べる水遊び場の創出 ・川沿いの道や大河原公園周辺への街灯の設置

〈交通・インフラ〉

第1回WS結果（地域の魅力と課題）	
地域の課題	
①道路 - 交通量の多い場所は横断歩道があってもなかなか横断できない。押しボタン式の信号機を増やしてほしい - 花見、花火大会時に車が渋滞し排ガスが出る - 白石川を挟んで交流できる道路がない ②排水 - 排水設備の老朽化により台風時の大雨により側溝があふれ、道路冠水発生している - 白石川と荒川の合流地点に集落が位置しており、両方の水位が上がると逆流し側溝の排水が悪くなっている - 堤防の強化が必要である ③街灯 - 裏通りの街灯が少なく暗いところがある ④交通 - 柴田町から村田町、フォルテの近道は交通量が多い - 電車の本数が少ない - 一時駐車場が駅東側にしかなく、車を停める時は東側からまわらなくてはならない	
第2回WS結果（必要な取組み）	
○安心安全な社会インフラの整備 - 歩行者の安全性を踏まえた道路改良 - 小学校近くの農道の拡幅整備 - 雨水排水施設の近代化	- 街路灯・防犯灯の適切な設置 - デマンド型乗合タクシーの利便性向上に向け取り組み - 町民バスの運行

〈災害〉

第1回WS結果（地域の魅力と課題）	
地域の課題	
- 避難場所の大河原小学校が浸水地域になっている - 平坦な土地のため避難場所が少ない - 液状化が心配 - 冠水が心配（15mm/hでも浸水する） - 桜町1区14番地は大雨が降ると道路が冠水するため排水ポンプ設置をお願いしたい - 雨水側溝や雨水管の基準が昔のままで温暖化に対応していないため排水機能が弱い - 橋にカゲロウが大量発生する	
第2回WS結果（必要な取組み）	
○災害に強いインフラ整備 水害に強いインフラの再構築	○避難計画づくり - 高齢者等の避難方法について地域協力を強化する - 迅速かつ確実な情報伝達方法の構築

〈景観・観光〉

第1回WS結果(地域の魅力と課題)	
地域の魅力	地域の課題
・ 一目千本桜の素晴らしさを後世に残したい ・ 蔵王山の雄大さと白石川の清流が素晴らしい ・ 蔵王山と田んぼのコラボレーションは最高 ・ 桜まつり、花火大会、オータムフェスティバル、おぼんりスターなど四季を感じられる祭りがある ・ 桜の風景をはじめ景色が良い ・ 田んぼの景色もきれい ・ 山、川、林など手つかずの自然も大切にしてほしい	・ 白石川左岸の上町～新田町に昔の桜通りを復活したい ・ 桜、新たに植えたところの知名度が低い ・ 街路樹の一部がアメリカシロヒトリの被害にあっているので駆除を早めにしてほしい ・ 桜の木の害虫がひどい ・ 昔は白鳥がきていたが今は来なくなった ・ 町の歴史は掘り起こせば数多くあるので町の歴史を後世に残すための仕組みが必要 ・ 町の歴史を町民にもっと知らせる努力をするべき
第2回WS結果(必要な取組み)	
○桜を観光や居住魅力向上に活かす! ・ 桜景観に対する住民感情に配慮した施設等の整備 ・ 桜の適切な管理の実施 ・ 桜関連の行事・イベントの開催 ・ 河川西側にも散歩コースの整備	○桜以外の魅力発掘 ・ 桜に代わる象徴的花木の創出（マロニエなど） ・ 地区の中でも古い街並みの保存と活用

〈コミュニティ〉

第1回WS結果(地域の魅力と課題)	
地域の魅力	地域の課題
・ 地区で畑を耕し楽しく野菜を栽培している ・ 連絡協議会組織が地域活動を担っている ・ 見守り隊が防犯活動を担っている	・ 地区の高齢化、少子化が早いテンポで進んでいる ・ 集会所がバリアフリーになっていない
第2回WS結果(必要な取組み)	
○コミュニティ力を活かしたまちづくり ・ 清掃活動などコミュニティ形成活動の継続的実施 ・ 高齢者と若者がふれあう場の創出	○公民館・集会所の利用促進 ・ 駐車場整備など公民館の利便性向上 ・ お茶会など集会所利用の一部無料化 ・ 高齢者が集まりやすい場の創出

(2) まちづくりの課題整理

地区の現況や住民意見を踏まえ、川西地区の現状とまちづくりの課題について、下図のとおり整理します。

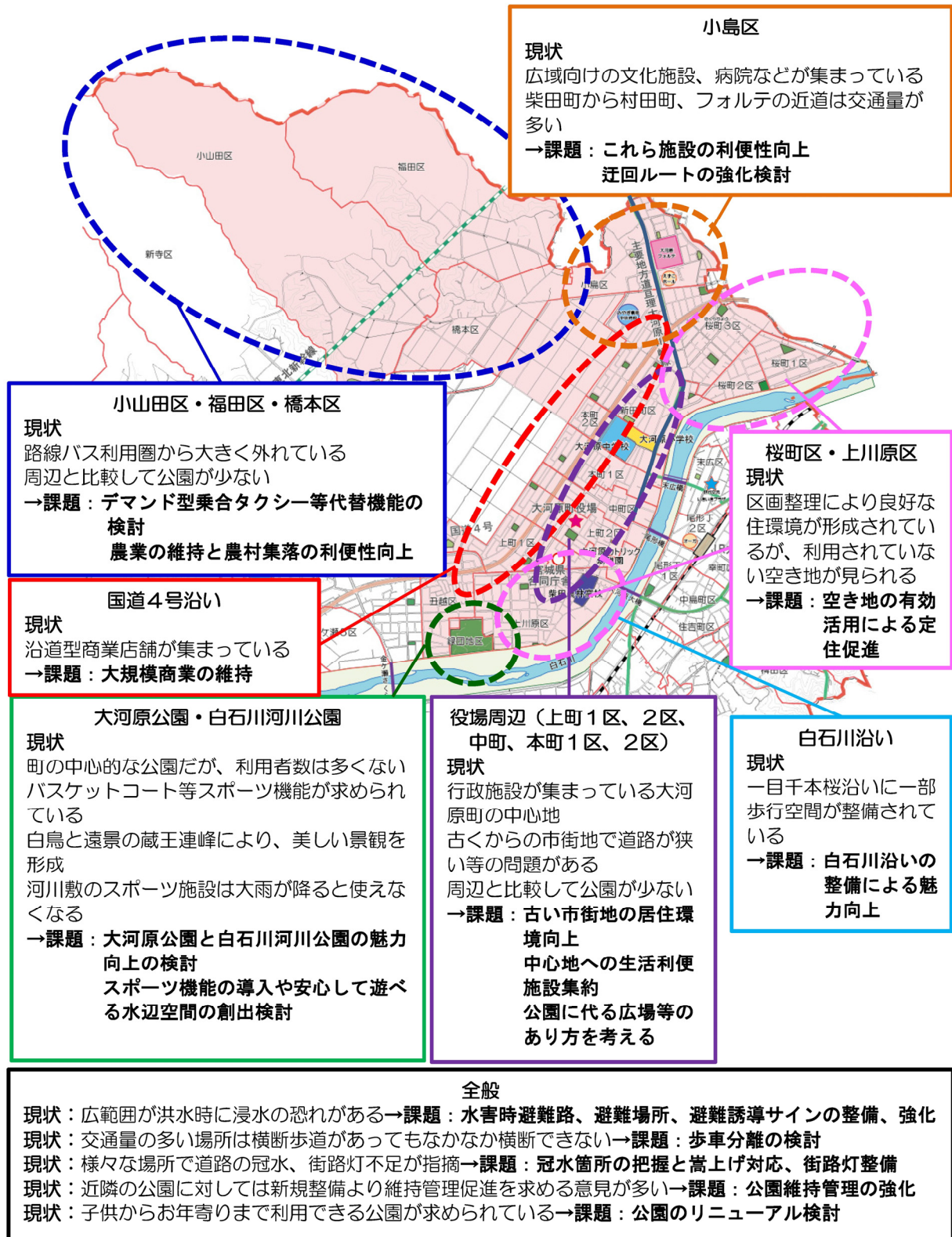


図 7-4 まちづくりの課題図

(3) 地区の目標像

1) 地区の目標像の検討

川西地区の現況と課題、住民ワークショップの結果から、川西地区のまちづくりに必要な「キーワード」を抽出し、「地域の目標像」を検討しました。

〈キーワード〉

コミュニティ活動 少子高齢化 国道4号沿いの大型商業店舗 既存商店街
公共施設 病院 公園の充実 一目千本桜

〈地区の目標像〉

**生活を支える多様な機能が集まり誰でも住みやすく、
あらゆる世代や町内外の居住者が交流する
便利・快適でにぎわいの中心となるまち**

2) まちづくりの方針

第5章 都市づくりの目標で整理した「都市づくりの基本方針」および地区の目標像を踏まえ、川西地区におけるまちづくりの方針を定めます。

①集約型都市（コンパクトシティ＋ネットワーク）の中心を担う拠点づくりによる便利で快適な居住環境の維持・強化

- ・本町の中心であり、公共バス利用圏となっている町役場周辺に町民生活を支える都市機能を集約します。
- ・地区内での生活を支え、住む人々が支えあうコミュニティを育てる地域内生活拠点を形成します。

②安全・安心で生活を楽しむことができる住環境づくり

- ・広範囲において洪水による浸水が想定されていることから、水害時避難場所、避難路、避難誘導施設（サイン等）の整備により、水害時避難の円滑化を図ります。
- ・住民より、古くからの市街地を中心に、道路が狭い、暗い、危ない、冠水する等について指摘されていることから、道路の拡幅、隅切確保、街路灯整備、歩道整備、冠水解消、路面表示整備等により生活道路の安全性を高めます。
- ・空き家の再利用や低・未利用地を活用し、居住魅力を高めます。
- ・都市公園、公共施設等への備蓄倉庫、防災トイレ等災害時に活用可能な施設の設置を進めます。
- ・コミュニティの活動を支える施設の維持や利便性・魅力向上について検討します。

③仙南地域の交通・商圈の中心拠点と広域交通ネットワークづくり

- ・広域圏を対象とした公益的施設や公共施設が集まる小島地区において、各種施設の維持や交通利便性の向上を図ります。
- ・大規模商業店舗が集積する国道4号沿道への更なる商業機能の充実を図ります。
- ・バス利用圏に各種生活利便施設を誘導します。

④雄大な白石川や旧奥州街道沿いに残る歴史的な資源を活かした居住魅力向上・観光交流に資する都市づくり

- ・白石川の河川空間や一目千本桜、広域的な景観の繋がりを活かしたレクリエーション空間の魅力向上による居住魅力向上・交流人口拡大、賑わい創出を図ります。
- ・旧奥州街道沿いの名残を伝える歴史的建造物等の歴史資源の有効活用と、街並み景観づくりによる交流人口拡大及び賑わい創出を図ります。

⑤豊かな自然の恩恵を活かした都市づくり

- ・まとまった農地の維持や耕作放棄地の再利用推進による営農環境の保全を図ります。
- ・自然環境の保全を図ります。

⑥情報共有・連携・役割分担の明確化による住民が主役のまちづくり

- ・計画段階からの住民参画推進や各種情報発信、勉強会開催によりまちづくりへの町民意識の向上を図ります。



町役場周辺



国道4号沿道の店舗



川西地区内の農業集落



川西地区内の公園と市街地

3) 将来都市構造

多くの公共施設が立地し、国道4号沿いに大型店舗が立地する等、利便性の高い地区であることを踏まえ、既存の都市構造を基本とし川西地区の将来的なゾーニング、都市拠点、都市軸を下表のとおり定めます。

表 7-3 川西地区の将来都市構造

〈土地利用ゾーニング〉	
①まちなかゾーン	・ 現行の用途地域内で、古くからの市街地を形成していた白石川・中央大通り商店街沿道を中心に、「まちなかゾーン」として位置づけます。 ・ 川西地区の中心部として、コンパクトでにぎわいがあり、公共交通を活用することで歩いて暮らせる市街地を形成します。
②市街地ゾーン	・ 現行の用途地域内で、昭和30年以降に実施してきた土地区画整理事業によって整備された場所や山間部付近の市街地を「市街地ゾーン」として位置づけます。 ・ 都市基盤の機能を高め、居住環境の充実を図ります。
③商業ゾーン	・ 国道4号沿いの商業店舗が集積している場所を「商業ゾーン」として位置づけます。 ・ 既存商業店舗を維持し、新たな店舗の充実を推進します。
④農業集落ゾーン	・ 用途地域外の低地を中心に農的土地利用が図られている場所を「農業集落ゾーン」として位置づけます。 ・ 営農環境や集落の住環境を保全し、調和のとれた田園景観を目指します。
⑤自然環境ゾーン	・ 用途地域外の丘陵地を中心とした町外周を「自然環境ゾーン」として位置づけます。 ・ 自然環境を保全するとともに、レクリエーション機能の強化を目指します。
〈都市拠点〉	
①都市核拠点	・ 町役場や合同庁舎等の行政機能や福祉センター等の福祉機能が集積し、中心商店街等が立地していることに加え、町民意向調査の結果「まちの拠点」と思うとの回答が最も多かった町役場周辺を「都市核拠点」と位置づけます。 ・ 生活、行政、交流といった都市活動の中心となる機能を集約し、本町の中心市街地としての活性化を目指します。
②広域連携拠点	・ 広域圏を対象としたみやぎ県南中核病院やえずこホール等の公共施設が立地している国道4号・主要地方道亘理大河原川崎線の交通結節点を、「広域連携拠点」と位置づけます。 ・ 広域圏で見た観光、医療・福祉等の共同設置や維持・更新の連携を図ります。
③地域生活拠点	・ 町役場周辺を、川西地区の日常生活を支える地域生活拠点として位置づけます。 ・ 地域に根ざした生活サービス機能や医療・福祉機能を集約するとともに、コミュニティ拠点としての活性化を目指します。
④レクリエーション拠点	・ 白石川沿いに位置する白石川河川公園、大河原公園および川前地区を「レクリエーション拠点」として位置づけます。 ・ 白石川河川公園、大河原公園については、既存の公園施設や植栽等の維持管理によりその魅力を保つとともに、魅力向上のための再整備を検討します。

〈都市軸〉

①広域連携軸

- ・関東地方と東北地方を結ぶ国道4号を、「広域連携軸」として位置づけます。
- ・既存道路や街路樹の適正な維持管理により、その機能を維持します。

②地域連携軸

- ・本町を横断する白石川に跨り、本町と仙南地域の各市町を結ぶ、主要地方道蔵王大河原川崎線、一般県道大河原蔵王線、一級町道西幹線を「地域連携軸」として位置づけます。
- ・既存道路や街路樹の適正な維持管理によりその機能を維持し、道路改良を促進することで、仙南広域圏における連携強化を目指すとともに、道路の必要性を再整理し、都市計画道路の見直しについて検討します。

③水と桜のレクリエーション軸

- ・白石川を「水と桜のレクリエーション軸」として位置づけます。
- ・歩行者路やサイクリングロードの整備や強化を図るとともに、河川と一目千本桜を活用した景観形成を図ることで、レクリエーション拠点の繋がりを強化し、本町を象徴する白石川の連続した景観の魅力を強化します。

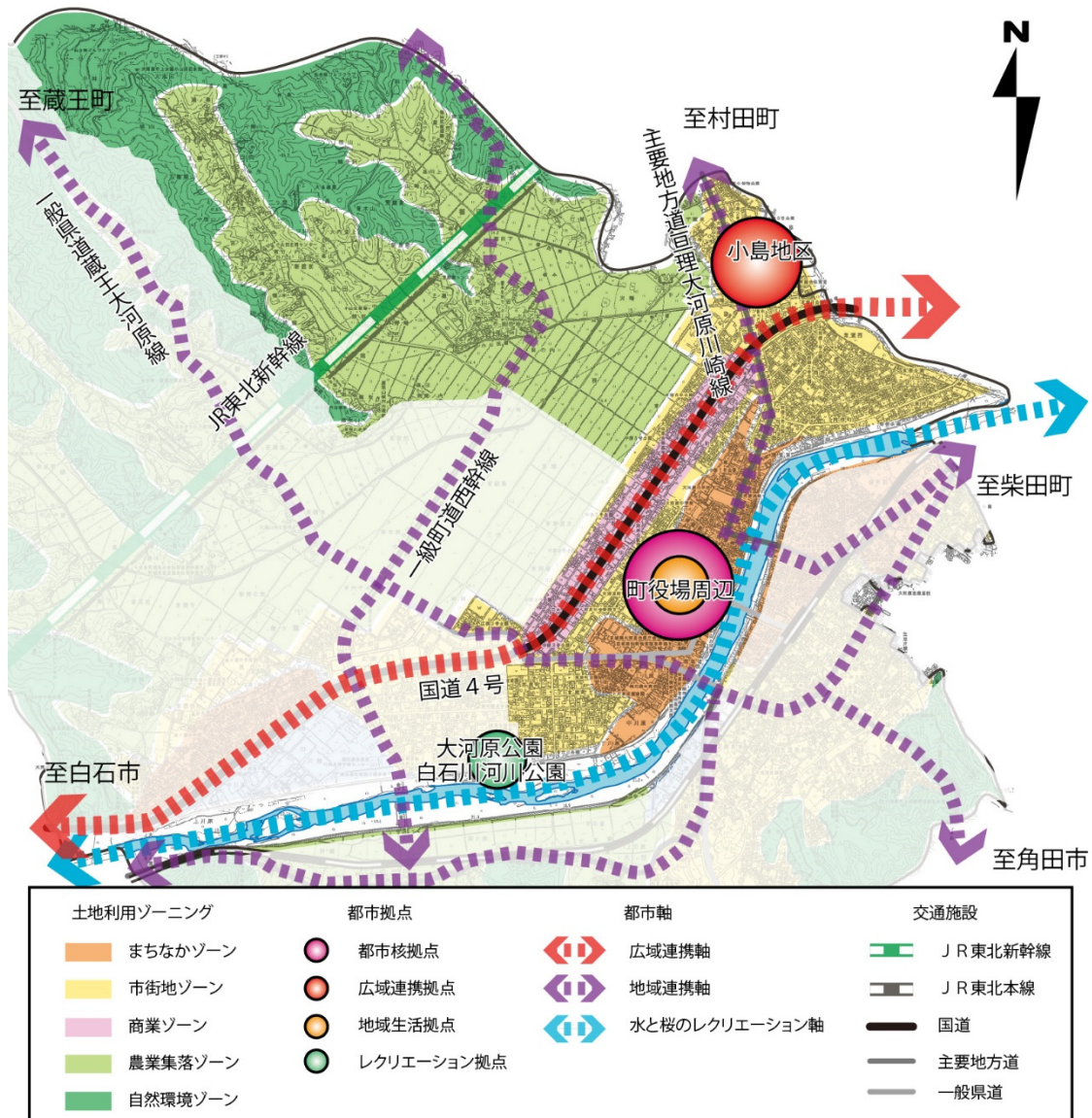


図 7-5 将来都市構造図（川西地区）

(4) 都市づくりの方針（地域別構想）

1) 土地利用の方針

課題や将来都市構造を踏まえ、土地利用の方針を整理します。

ゾーン・位置		土地利用配置方針
まちなかゾーン	都市核拠点 地域生活拠点 (町役場周辺)	- 本町全域の居住者を対象とした行政機能、医療・福祉施設、生活利便施設の集積を図るとともに、コミュニティ施設の機能強化を図ります。 - 川西地区の居住者が利用する生活サービス機能やコミュニティ施設の機能強化を図ります。 - 既存商店街に、国道4号沿いの大規模な商業店舗とは異なる魅力をもつ商業機能の誘致を目指します。
	その他の場所	低・未利用地や空き家の活用により、定住人口確保の受け皿となる住宅用地を確保します。
市街地ゾーン	広域連携拠点 (小島地区)	仙南広域圏の情報を発信する文化機能や事務機能、大規模医療・福祉等の共同設置、維持・更新を図ります。
	その他の市街地	低・未利用地等の活用により、定住人口確保の受け皿となる住宅用地を確保します。
商業ゾーン		本町全域や仙南広域圏の自動車利用者を対象とした大規模な商業店舗の更なる立地を推進します。
農業集落ゾーン		- 農地集積による農業規模の拡大を推進します。 - 農業集落の居住環境の維持・向上を図ります。
自然環境ゾーン		森林については、適切な保全を図ります。
白石川	レクリエーション拠点	白石川河川敷の公園において、既存のレクリエーション機能の維持・強化を図ります。
	その他 河川敷空間	レクリエーション拠点間を繋ぐ歩行者・自転車の移動空間としての機能を高めます。

2) 市街地整備および保全の方針

「まちなかゾーン」、「市街地ゾーン」および「農業集落ゾーン」の整備および保全の方針を整理します。

ゾーン・位置		市街地整備および保全の方針
まちなかゾーン	都市核拠点 地域生活拠点 (町役場周辺)	- 既存の商店街では、道路空間の修景整備を行うとともに、低・未利用地のにぎわい空間としての活用を検討します。 - にぎわい交流施設の周辺においては、利用者がアクセスしやすいよう道路環境の向上や周辺における駐車場の整備を検討します。 - 人々が集うにぎわい交流施設や集会所等のコミュニティ施設について、周辺環境のバリアフリーを図るなど高齢者や障がい者に優しいまちづくりを検討します。
	ゾーン全般	- 狭隘道路の改良や街路灯の設置を推進し、日常の安全性や災害時の速やかな避難経路を確保します。 - 豪雨時に冠水する生活道路については、優先順位を定め冠水の解消に努めます。

ゾーン・位置		市街地整備および保全の方針
市街地ゾーン	広域連携拠点（小島地区）	・国道4号および主要地方道亙理大河原川崎線から各種施設へのアクセス性向上を図ります。
	ゾーン全般	・土地区画整理事業によって整備された住宅地や新興住宅地においては、整然とした住宅地環境維持のために、コミュニティによる植栽活動の促進を検討します。
農業集落ゾーン	ゾーン全般	・営農環境や自然環境との調和に配慮した集落環境の維持・整備を図ります。 ・人口減少や高齢化の進展に配慮し、地域コミュニティの維持・向上に向けて集会所の適正な維持管理や周辺環境の整備を図ります。

3) 交通施設の整備・保全および見直し方針

①主要幹線道路

- ・県内外または仙南広域圏を繋ぐ道路を「主要幹線道路」と位置づけます。
- ・概成済路線および未整備都市計画道路については、「都市計画道路見直しガイドライン（改定版）（平成30年3月宮城県土木部）」に基づき、見直しについて検討します。

○該当する路線

国道4号、主要地方道亙理大河原川崎線、一般県道蔵王大河原線、一般県道大河原高倉線（国道4号から大河原大橋までの区間）、一級町道西幹線

路線名称			道路の整備・保全および見直し方針
広域連携軸	国道4号		・国道4号を「広域幹線軸」と位置づけ、県内外との円滑な連絡を確保するために、既存の交通機能を維持します。
地域連携軸	主要地方道亙理大河原川崎線	（都）末広線として都市計画決定している区間	・宮城県や柴田町との連携を図りながら、沿道の土地利用を整理し、道路改良を実施可能な区間から段階的に概成済み都市計画道路の拡幅、末広橋の拡幅について検討します。 ・JR東北本線との交差部分における道路構造については、高架化した場合と現況の踏切道で交通ネットワーク配分結果に大きく差異はなく、多大な事業費を要し住宅が連続して立地しているため事業の実現性が低いことから、道路構造の見直しを検討します。また、これに伴いJR東北本線の交差箇所のルートの見直しへの振り替えを含め幅広い検討を進めます。
		（都）本町大通り線として都市計画決定している区間	・沿道の土地利用を整理し、道路改良を実施可能な区間から段階的に道路改良を進めます。 ・商店街に隣接し、車両の停車が見込まれることから、停車帯を確保します。
	一般県道蔵王大河原線		・既存の交通機能を維持するとともに、狭隘区間の拡幅整備を推進します。
	一般県道大河原高倉線		・既存の交通機能を維持します。
	一級町道西幹線		・既存の交通機能を維持します。

②都市幹線道路

- ・主要幹線道路の機能を補完し、本町内または隣接する市町までの円滑な移動を支える道路を「都市幹線道路」と位置づけます。

○該当する路線

一般県道大河原停車場線

路線名称	道路の保全および見直し方針
一般県道大河原停車場線	・既存の交通機能を維持します。

③地域内幹線道路

- ・都市幹線道路の機能を補完し、川西地区内の円滑な移動を支える道路を「地域内幹線道路」と位置づけます。
- ・概成済路線および未整備都市計画道路については、「都市計画道路見直しガイドライン（改定版）（平成30年3月宮城県土木部）」に基づき、都市計画道路の廃止も含めた見直しについて検討します。

○該当する路線

（都）中部幹線、（都）東上線、（都）本町大通り線（主要地方道亘理大河原川崎線との重複区間は除く）

路線名称	道路の保全および見直し方針
（都）中部幹線	・既存の交通機能を維持します。
（都）東上線	・既存の交通機能を維持します。
（都）本町大通り線	・沿道の土地利用を整理し、道路改良を実施可能な区間から段階的に道路改良を進めます。 ・商店街に隣接し、車両の停車が見込まれることから、停車帯を確保します。

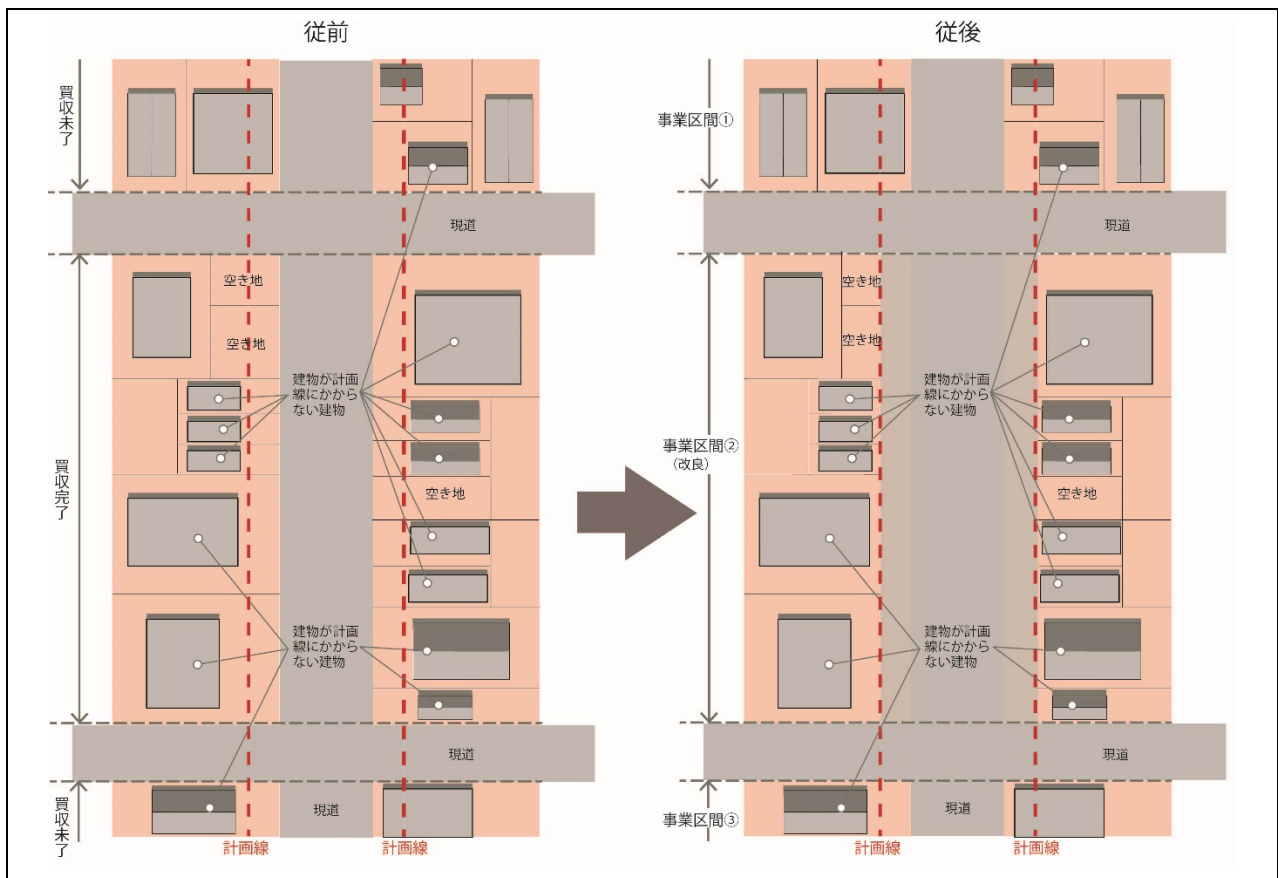


図 7-6 都) 末広線、(都) 本町大通り線の段階的な道路改良のイメージ

④生活道路

- ・ まちなかゾーン、市街地ゾーン、農業集落ゾーンにおいて、生活道路の課題箇所を整理し、狭隘道路の拡幅、隅切整備、歩道整備、降雨時冠水区間等の道路改良を推進し、日常の安全性や災害時の速やかな避難経路を確保します。
- ・ 駅までのアクセス性を高めるため、(都) 大河原駅前大通り線に接続する道路については優先的な整備を検討します。

路線名称	道路の整備・保全および見直し方針
(都) 西浦通線	・ 概成済み都市計画道路ですが、交通量は少ないこと、沿道に住宅が連続して立地しており事業の実現性が低いこと、土地区画整理事業により代替ルートが確保されたことから都市計画道路の廃止を含めた見直しを検討します。 ・ 本ルートにおいて、道路幅員の狭い区間や隅切が不足している区間については、課題箇所を整理し道路改良について検討します。

〈バス交通〉

- ・ 関係機関と連携し、大河原駅を中心とした路線バスルートを維持します。
- ・ 路線バス利用圏から大きく離れている小山田区・福田区・橋本区の居住者に対する交通を補助する機能として、既存のデマンド型乗合タクシーの機能強化について検討します。

4) 公園緑地等の整備方針

①都市公園

- ・公園が少ない町役場周辺や小山田区・福田区・橋本区を中心に、空き地を活用した公共空地の確保を検討します。また、住民意向を踏まえた整備と適正な維持管理を図ります。
- ・市街地の状況を考慮し、都市計画公園の見直しを検討します。
- ・白石川河川公園については、住民意向調査結果に留意し、河川管理者との協議を行いながら機能強化と適正な維持管理を図ります。また、親水空間の強化を検討します。

②白石川河川敷の有効活用

- ・河川堤防天端や河川敷空間を活用したサイクリングロード等の整備を検討します。

5) 景観形成の方針

- ・全体構想および住民意向を踏まえ、景観形成の方針を整理します。
- ・住民意向では、白石川や一目千本桜、それを前景とした蔵王への眺望を大河原らしい景観として捉えていることがわかります。また、蔵王と田園による景観にも魅力を感じていることが分かります。
- ・同時に、大河原町の歴史を活用したまちづくりについても指摘されており、旧奥州街道沿いの古くからの街並みの保全も求められます。

①蔵王連峰を背景にした景観の保全

- ・本町の至るところから見ることができ蔵王連峰は、河川景観や市街地景観、田園景観と一体となり美しい景観を創り出しています。蔵王連峰への眺望景観を確保するために、建築物の高さは眺望を阻害しないよう配慮するとともに、街路樹についても視線を阻害しないよう適正な維持管理を推進します。

②河川景観

- ・白石川の水面と一目千本桜が一体となった河川景観は、本町のシンボルとして、広く町民にも愛されています。この景観を維持し、その魅力を高めるために、河川空間の適正な維持管理を推進するとともに、特に魅力的な場所については景観整備を行います。

③歴史的景観

- ・旧奥州街道は、町の歴史を今に伝える重要な景観資源です。旧奥州街道が横断するまちなかゾーンにおいては、道路舗装や道路構造物等の改修にあたってはその歴史に配慮した景観整備を行うとともに、沿道建築物については景観に配慮したルール設定を検討します。

川西地区 地域別構想図



